

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2397100062		
法人名	自然株式会社		
事業所名	グループホーム じねん		
所在地	愛知県田原市釜鑄67番地		
自己評価作成日	令和5年3月1日	評価結果市町村受理日	令和5年4月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy_osvoCd=2397100062-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy_osvoCd=2397100062-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
聞き取り調査日	令和5年3月10日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

自然体の環境の中、日常生活が自分たちの力で行えることが目標。そのための居室の色付け、階段の色付けを行った。また清潔な入浴、気持ちよい入浴のため一人1湯を実施している。気持ちよい居心地が良いようにすべてホームは木で作ってある。利用者も職員も共に楽しく、笑顔で過ごせるよう努力している。理念は‘こだわらない’‘とらわれない’‘ほどほどに’‘あるがままに’‘このことを念頭に置いてケアをしかつ職員のQOLの向上を図っている。職員は毎日いいこと探しをし、互いにほめあう努力をしている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

◎軽減要件適用事業所  
 今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。  
 ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」  
 ②軽減要件確認票  
 ③目標達成計画

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	定期的に朝礼で共有している。実践につなげるように努力している。理念の再確認を朝礼や会議で再確認をしている。新人職員にも伝えているのでおおむね共有できている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナのため以前ほど交流はできていない。朝、昼、夕の散歩時は防犯ベストを着用し、歩く。挨拶はしっかりできている。散歩や畑作業等地域の人とかかわれる場面づくりをしている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	散歩、買い物、運営推進会議などで馴染みの関係づくりやホームの活動を伝えている。コロナ下で思うように外に出ることができない。また面会を控えていたため来訪者も少ない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	報告は十分できている、良い点や改善すべき点なども話し、アドバイスも受けている。かつホームにとり必要なことは取り入れる努力をしている。推進会議の開催も書面での開催が多くなってしまった。		
5	(4)	rinennno 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町村担当者との交流はないが事務手続等についてはしっかり行っている。運営推進会議への出席はない。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束はない。建物のつくりそのものが開けた環境づくりになっている。施錠は夜間の玄関のみ。日中は開放している。また運営推進会議で身体拘束状況の報告は都度行っている。身体拘束をしないケアは実行している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止に関しても運営推進会議で報告し、見通しの良いケアを行っている。会議等での勉強会やケア方法について話し合っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	以前後見制度の活用があったが、現在は活用を必要とする人は見えない。制度の理解の勉強は必要と考える。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	しっかりと説明は行っている。家族からの疑問にも丁寧に答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	開けたホームづくりをしている。そのためコロナ下であっても利用料の支払いは直接ホームに払いに見えるその時には現状の報告や家族の意見を聞いている。また、必要時は専門医への定期受診には付き添っている。運営推進会議の出席はご家族参加をお願いし、当番制を導入している		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期会議等での意見や思いを吸い取っている。自分の意見を言えば反映してもらえることが増えた。月1回の会議実施。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	努めていおる。一人一人をよく見ている。業務時間が終われば直ぐに帰るように配慮、また、個々の頑張りに応じた配慮もある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外へ出ることが難しいコロナ環境であったので社内研修を実施し、必要な職員参加を呼び掛けた。朝礼時には今現にある問題点やケア方法に関する指導を行っている。短時間の内部研修は増加。月1回外部講師の講義あり。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	交流はまだまだ少ないが他施設の運営推進会議に積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	努めている。DS利用からのGH利用者が多いので情報はかなり多くあり、人的、物的環境の変化は少ないため、安心して利用継続される方が多い。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	努めている。サービス導入はDSから継続するため、家族との関係づくりはスムーズであり、ホームには最低月1回は見える。よく見える方は毎週お見えになる。(面会は外の玄関先)		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	努めている。DSのサービス利用からGH利用となることが多いため引き続きの支援ができています。日ごとに変化する個々人の状態や心情を見極めることにポイントを置いたケアに努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	努めている。暮らしをともにする関係を築くよう努めているが全員がそうではない。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族との関係が切れないよう行事への参加、面会等極力触れ合う時間を作り、大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ下であるため家族以外の面会は今年度は避けてきた。以前は外に出たり、などと切れないよう支援してきた。また、できるようになってほしい。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	努めている。調理、畑仕事、洗濯などは利用者同士で協力している姿を目にする。利用者同士が自由に話ができるよう工夫したり、時間を取っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他施設への移動に関しては情報が無いのが現状。亡くなられた方のご家族がたずねて来られることはある		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	集団生活の中で可能な範囲では希望に添えるよう努めている。状況に応じて対応するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	努めている。話したくない方も見えるので資料から得ていることもある。コミュニケーションを大事にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	努めている。朝のバイタル測定から。毎日の観察を心掛けている。出勤時の記録把握を実施。見極めることを心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	変化あれば記録に残し、月1回の会議にて検討。またモニタリングにも努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	活かしている。毎日のケース記録、朝、晩の申し送りなどで情報交換を実施。会議で検討を行っている...		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	DSのお泊りの方の受け入れ。散歩時のごみ拾い。毎日のご飯づくり等日常生活を取り込んだケアを実施。朝、昼、夕の散歩。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ下で地域の祭りや催し等出かけることができなかった。買い物は状況を見定めて利用者と一緒に掛けている。散歩時は地域の安全ベストを着用し、地域見回りの一環を担っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	受診は基本家族支援で行い、受診後の報告は受けている。また緊急時は主治医との連携を図っている。認知症専門医への受診は職員も付き添い家族と一緒に受診している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	支援している。記録の確認や申し送りにて日常の変化等情報交換をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療行為終了後はできる限り早めの退院を相談している。しかし病院の方針とうまく合わないことがある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	本人とのコミュニケーションが可能ならば本人からも聞いている。また家族とは終末に関する話し合いをしている。家族との協力体制が取れるときに関してはホームでの看取りも行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	応急処置の勉強会は年1回程度あるが、全員が身につけているとはいえない。マニュアル作成あり。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の防災訓練を実施。消防署の方の指導を仰ぐこともある。実施後の反省会にて不備など原因を究明をして、次回に活かしている。地域との連携はできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人の対応は配慮し、個室で話したり周りへの気遣いもしている。時に強い口調や言葉使いの配慮だ足りない時もあり、反省している。気持ちよいかかわりができるようケアしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	努めている。実践はしているが、うまくいかないことが多い。自己決定ができる方に関しては自分で決めていただくように配慮している。選択できるような声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	集団生活の中での生活であるため、普通の家族並みの対応ができることを念頭に置いて対応している。業務が優先にならないよう気を付けている。レクへの参加も無理に誘わない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	興味がある方、ない方もお見えになるため、その人にあった支援を心掛けている。美容院への支援は家族で行っているが、支援できない方には職員が付き添い美容院に出かけている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	最大限努めている。よくできていると考える。利用者と職員と一緒にやっているが、極力本人の力を引き出せるように支援している。時には皆でメニューを考えたりしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	支援している。食事量、水分量の個々人の記録をしている。水分摂取への工夫もしている。1日3色には汁物を必ず提供。食事形態への配慮もあり。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	実施している。入れ歯の方は夕食後は洗浄液につけている。歯医者への受診が必要な方には受診をお願いしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	行っている。トイレ誘導、時間帯等は本人に合わせ行っている。また、動きや表情から察知し誘導することもある。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	散歩や体操、日常をアクティブにするなどしている。また水分摂取を心掛けている。頑固な方への対策としてオリーブオイルの提供もしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	個々に沿った支援を実施。かつ一人一人湯を実行しいつも一番湯に入っている。夜希望の方も見える(職員体制が整っているときは希望に沿う)		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	体調に合わせて横になっていただく。夜間は安眠を一番に対応し、そのため夜間のみおむつを使用する方もある。パットの種類を工夫し夜間は極力寝ていただく工夫をしている。眠剤使用の方も見える。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	努めている。理解できている職員やまだよくわかっていない職員もいる。状態の変化あれば報告しあっている。薬は大事な支援であることの認識は時に触れ確認しあっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	支援努力をしている。利用者の得意なことやその人その人に応じたできることを活かせるよう配慮している。職員が見守りできる方は、積極的にしてもらっているが職員がついていないといけない方は頻度が少なくなってしまう。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ下でできていない。感染状況に合わせて可能な限り行っている。人の集まらない場所を選定し出かけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	コロナでないときは一緒に選んだり、買い物をさせていただいていた。管理のできる方2名は所持されている。今は必要なものを買に行く程度。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自ら電話をかけることはほとんどない、かかってきた電話に出る。年賀状を本人が書いたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	工夫されている。居心地は良い。外の景色が見渡せ展望が良い。花壇に季節の花が植えてあり、ときに生け花をしたりして楽しんでいる。窓からはお日様が降り注いでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	畳椅子を活用している。そこで会話をしたり、寝そべっていることもある。一人になりたいときは自席にすることが多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家から持ってきたものを活用している方も見えるが、多くは持ってきていない。必要物品程度。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	工夫がされている。要所要所は全体が見渡せる空間作りとなっている。居室は各部屋の色が違っている。階段は赤と白乳色の色使い、手すりは黒色でくっきり見ることができ。木材使用の建物でフローアは木でできている。		